

2021年9月5日(日)

老球の細道629号

失ったものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今回はパラリンピック車いすバスケットボールで男子が歴史的な快挙を成し遂げた。世界ランク1位のイギリスを準決勝で破り初の決勝進出を果たしたのである。ペイントに入れないディフェンスとトランジションオフェンス、そして巧みなパスワークからの正確なアウトサイドシュートで後半に逆転して突き放した。(決勝は本当に惜しかった)。

私も車いすバスケットボールを経験したことがある。車いすを走らせながらのレイアップシュートが非常に難しかったことを覚えている。シュートの時に車がひっくり返ったこともあり、シュートするのも恐怖感を感じてしまった。見るのとするのは相当違う。

シュートフォームとシュート距離を出すことを指導する「チェアシュート」ドリルがある。椅子に座りながらシュートをする練習だが、車いすの選手は平気でプレイしているが、これがなかなか難しい。フリースローラインからのシュートもなかなか届かない。しかし、車いすの選手たちは座りながら、動く車いすに乗って縦横無尽にシュートを決める。準決勝での香西選手のアウトサイドシュートは驚異的であった。どれだけ練習しているのだろう。

パラリンピックのみならず、身体の不自由な人たちが人並み外れた訓練と努力で、人並外れたパフォーマンスを示しているのを見ると、私自身の日々の活動の甘さが身に沁みさらされる。思い上がったり、落ち込んだりしたときには、いつもこのような人々の生きざまに刺激を受けてきた。今回のパラリンピックのようなスポーツ関係はもちろんだが、それ以外の人にも多くの影響、薫陶を受けてきた。今後加齢の試練の中、残されたもので勝負する。

【ヘレン・ケラー(1880~1968)】: 見えない、聞こえない、話せないの三重苦に見舞われながら困っている人たちのために慈善事業に尽力したアメリカの教育家、社会福祉活動家。私が小学校の時、映画教室でヘレン・ケラーの自伝映画『奇跡の人』を観て知った。この頃私は家庭の事情で投げやりな生き方をしていたが、この映画を観て自分の置かれた環境がいかに恵まれていたかに目を覚まされた。

【辻典子】: 1981年に発表された映画『典子は今』で知る。サリドマイド薬害に合い、生まれた時から両手を失っていたが、足で手の代わりにやるようになり身体障害者の社会参加を訴えた。当時原町高校のバスケット部員を引き連れて映画館「朝日座」で観賞し、更なる努力を部員と共に誓ったことが懐かしい。

【星野富弘(1946~)】: 元中学校体育教師だが、部活動の指導中铁棒から落下し頸椎損傷となる。首から下が全て麻痺し、口で絵を書く創作活動に活躍し、多数の書籍、絵画集を出版し、自分の美術館も創設した。喜多方女子高校時代、心臓病で落ち込んでいた私を当時のバスケット部保護者会がマイクロバスで星野富弘さんに会いに行くツアーを企画してくれた。星野さんと直接話をして、本人の絵筆を口にくわえながらの創作活動を目の当たりにして自分の弱さを自覚した。その後発奮して2年で病気を克服し現在に至る。